

## 創作オペラと現代サーカス

この5月、高松で創作オペラと現代サーカスが相次いで公演されます。

まず、創作オペラ。サンポートホール高松の開館10周年記念企画提案事業としてオペラ「扇の的」公演が選定され、5月17日（土）と18日（日）に上演されます。源平屋島合戦の中で最も有名な、那須与一が扇の的を射る場面を題材にした新作オペラです。台本や作曲・演出を高松出身者または在住者が手掛け、公募した出演者も香川ゆかりの実力者を揃えた、まさに地産地消の本格オペラとなっています。主役は扇を持った平敦盛の妻、葵。死を予感し滅びゆこうとする平家の女人達を中心に、弓の名手・那須与一、源氏の大將・義経らを絡めた物語をオール讃岐キャストで歌い上げ、舞台を盛り上げていきます。

オペラの語源はイタリア語で、仕事とか作品を意味します。そして、創造的な協働作業を「コ・オペラ」とも言うそうです。「扇の的」は、まさに市民の「コ・オペラ」により作り上げられる芸術作品です。創造都市高松の一つの成果として、記念碑的な作品になることを期待しています。

そして現代サーカス。高松国分寺ホールの開館1周年記念も兼ねて、日仏共同創作公演「キャバレー」が5月23日（金）から25日（日）までの3日間開催されます。主催は瀬戸内サーカスファクトリー。率いる田中未知子さんは、北海道から香川に来て、瀬戸内の自然や伝統芸能などが息づく風土に接し、この地で現代サーカスの拠点をつくりたいと考え、活動をしている方です。今回はフランスのサーカス集団カンパニー・リメディアが、アジアツアーの合間にさぬき市の中学校跡施設で日本のアーティスト達と滞在制作をして本番公演に臨みます。「サーカスっていうより演劇的フィジカルシアターといった感じ」だそうです。芸術性の高いフランス現代サーカス（シルク）の魅力を存分に味わってほしいと意気込んでいます。

サーカスの語源はラテン語で、円周とか回転を意味します。どの観客席からも見渡せる「輪」ということです。高松発の現代サーカスの新しい輪が幾重も放たれ、大きく広がっていくことを夢見ています。